

令和4年度企画展示

「ガラス乾板の残した光景Ⅲ」を 開催します

会期 4月19日(火)～10月29日(土)

文書館では、寄託又は寄贈いただいたガラス乾板(写真乾板)のデジタル化を進めており、平成25年度には、開館記念特別展示として内山家のガラス乾板写真を、また、平成29年度には、滝澤家ガラス乾板写真を展示し、これら乾板に残された光景の数々を御紹介しました。今回は、当時伊勢町の故関谷一郎氏が残され、平成30年4月に寄贈をいただいた760点にも及ぶガラス乾板写真について公開するとともに、その中の一部の写真を展示させていただくこととしました。

これらの写真は、乾板の箱に残された記載などから、主に昭和初期の郷土の様子を撮影したものであると思われまふ。世界恐慌からの昭和恐慌、そして満州事変に始まり日中戦争によって戦時体制に移行する激動の時代。国家総動員法の公布により、農業を含む産業も、国家統制下に入り、肥料・飼料・農機具に加え農業薬剤などの生産資材も配給統制が実施されました。この時代を含め、関谷氏は、長野県職員として農事試験場一筋に勤務され、病虫害防除の第一人者でした。そのため残された写真の多くは、これらに関する貴重

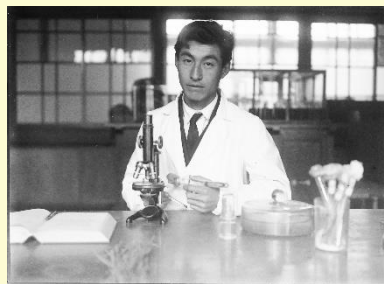


写真: 稲収穫期のスナップ(昭和初期)
写真中央に関谷一郎氏の姿が見える。

な記録の一部であり、また、家族写真などの日常風景からは、激動の時代にあっても、郷土の人々の暮らしの一端を垣間見ることのできる貴重な史料といえます。



写真: 忽布(ホップ)試験地風景(昭和初期)



関谷 一郎氏 略歴

関谷一郎氏(1903-2006)は、明治36年11月に小布施村に生まれ、大正9年3月 農事試験場農事講習所卒業後、農事試験場助手、諏訪郡農会技手をを経て、大正15年から昭和37年まで農業試験場に勤務。この間、昭和26年には害虫部発足と同時に害虫部長に就き、昭和34年から病虫害部長として多くの研究成果を残されました。

関谷氏は、農作物害虫の生理、生態、予察、防除について、農業現場に密着した実学的研究を重ね、その成果は当時の至上命令であった食糧増産に貢献しました。それは、東京農業大学の農学博士の学位、日本応用動物昆虫学会評議員・名誉会員、農業技術協会会長賞、並河農業技術顕賞、第13回信濃毎日新聞社文化賞(農業部門)などの受賞など広く認められています。

県職員退職後も、長野県植物防疫史の編集委員長、長野県果樹発達史の病虫害分野編集委員として膨大な資料収集に尽力され、八洲化学工業研究所技術顧問としても活躍されました。また、農業関係以外でも、葛飾北斎・高井鴻山研究にも貢献されました。

(長野県農業大学校卒業の芋川五作氏、竹内洋夫氏並びに清水正克氏の皆様が関係会報に寄稿された文献を参考とさせていただきます。)